普及活動情勢報告（令和４年５月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

（株）須崎青果ニラ栽培講習会の開催！
～ニラの基本的な栽培管理、土づくり、農薬の安全使用について～

講義を熱心に聞き入る
生産者

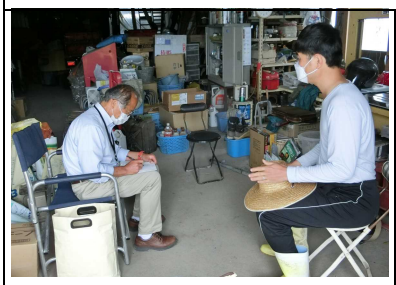
４月 28 日、のいちふれあいセンターにおいて、（株）須崎青果のニラ栽培講習会が開催され、管内を中心に生産者 30 名が参加しました。

（株）須崎青果では、今年から品目ごとに講習会の開催を計画しており、３月に幡多で行われたオクラに続き、ニラは２例目の開催でした。農業改良普及課は、基本の栽培管理から土づくり、葉先枯れ対策や農薬の安全使用について指導を行い、熱心に聞き入る様子がうかがえました。

生産者からは、ニラの栽植密度やアザミウマ類の効果的な防除方法、ナメクジ対策等について質問がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、生産者への支援を行います。

就農希望者への相談・支援
～実践研修中の地域おこし協力隊員との面談～



就農準備中の就農希望者と
面談する普及指導員

５月16日、ハウスニラでの就農に向けて実践研修に取り組んでいる、香川県から移住した地域おこし協力隊の方と面談し、就農に向けて聞き取りやアドバイスを行いました。

地域おこし協力隊の方からは、将来、独立自営農業を行うために必要な経営規模や農地、中古ハウスの情報収集について質問がありました。

農業改良普及課では、移住して就農される方だけでなく親元就農される方など、様々な就農希望者の方々が円滑に就農できるよう引き続き関係機関と連携して適切な支援に取り組んで行きます。

基盤整備後の有望品目を探す～カンショの栽培～

参加者全員で行った
定植作業の様子

５月６日、南国市のカンショ実証ほで定植作業が行われ、実証農家３名とカンショ加工業者、ＪＡと農業改良普及課が参加しました。実証ほでは、南国市の基盤整備後の有望品目候補であるカンショを管内の土質の異なるほ場で栽培し、収量等を調査します。

農業改良普及課は、取組に係る試験設計に携わり、定植から収穫までの計画をＪＡや加工業者と協議してきました。当日は、ツルを挿す深さや土壌水分の多少による生育の違いなどについて議論しながら作業を進めました。

10月頃に収穫する作型になり、収穫機を用いた実演会も計画しています。農業改良普及課は、引き続き関係機関や農家と情報を共有し、有望品目の検討を進めていきます。

アザミウマ類に備えよう！
～ニラ部会グリーンカレッジ研修会～

防虫資材の説明に聞き入る新規就農者

４月22日、ＪＡ高知県香美地区ニラ部会グリーンカレッジ（新規就農者が中心となり活動する組織）研修会がＪＡ野市支所で開催され、新規就農者４名が参加しました。

研修会ではアザミウマ類の防除を中心に講義を行い、ＪＡからの防除全般についての説明後、農業改良普及課からは、好結果であったＲ３年度の防虫資材試験結果とＲ４年度の試験計画を説明しました。

研修後に実施したアンケートでは、試験中の新しい防虫資材について、興味があり使ってみたい、との返答が参加者全員からあり、アザミウマ類試験への関心の高さがうかがえました。

農業改良普及課は、引き続き関係機関と連携し、新規就農者の早期経営安定に向けた支援を行います。

来作に向けた準備を始めよう！
～土壌消毒を中心とした病害虫防除～

講習会の様子

５月16日、ＪＡ香我美集出荷場でＪＡ高知県香美地区なす部会が栽培講習会を開催し、生産者14名が参加しました。

ＪＡ高知県からは、青枯病に対する土壌消毒や来作に向けた施肥設計基準の提案、並びに土壌改良資材の紹介がありました。また、農業改良普及課からは、土壌還元消毒や前作から被害が出ているナスフザリウム立枯病、並びに今作発病の多いすすかび病の防除方法について説明しました。生産者からは、フザリウム立枯病対策のローテーション散布等についての質問があがりました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、一作を通じた安定生産を支援していきます。

農福連携の取組に向けて　～関係機関との合意形成～

研究会の活動について協議中

５月20日、香南市役所において香南市農福連携研究会のメンバーである市と県の職員６名が参加し、今年度に取り組むテーマと活動内容について協議しました。

会議では、研究会設立までの経緯を確認し、農業改良普及課からは、香南市で農福連携に取り組んでいる農家の事例紹介や具体的な活動について提案しました。

今年度は「受入れ体制づくり」をテーマにし、まずは福祉と農業分野での支援制度について学ぶことを決めました。

農業改良普及課は、市と連携しながら農福連携の活動を推進していきます。